

海 (かいし) 市

No. 23

● 詩

- 02 前田 勉 吹雪・夢幻
06 横山 仁 生活の柄 (18)

● エッセイ

- 08 細部俊作 ローベルト・ゼーターラー著
「ある一生」を読んだ
11 佐藤ただし 水田とツバメ (21)
14 横山 仁 雑記 (23)

吹雪・夢幻

前田 勉

吹雪になり始めた夕暮れの山あい
板戸の隙間から伸びる

土間の雪明りを

一瞬

遮り

裏山へ

ザクツ ザクツ

と

堅雪かたゆきを踏みしめながら

だれかが

歩いて行った

板戸を覗くと

雪はなく

暗くなりかけた森で

ヒグラシが切なく鳴いている

季節が反転していた

過ぎた日

母に連れられ

祖母の待つ家へ行った夏休みの

最初の日から

ずっと

潮騒のような耳鳴りが

湧き出では増幅され

か細く消えてゆく

両耳の奥の

奥

その

奥で

繰り返されて

誰もいない

広く暗い土間の片隅で

影に同化してうずくまると

託かこつ私をかばうように

時間も

止まった

その時から

私の中の

祖母は

裏山の畑から帰って来ていない

荒れ狂う吹雪に

少しずつ何かが消されていくようだ

板戸の隙間から伸びた

細い雪明りが

また

途切れ

ザクツ ザクツ

と

重い音がして

裏山にあるという

祖母が話してくれた

村の奥津城おくつきの方へ

だれかが

歩いて行った

生活の柄(18)

横山 仁

散らかっている
老母

半分残した
パンやバナナは ゴミ袋へ
割れたおかきは 掃除機で

時には
のら猫(待っている)
や すすめが おこぼれに預かる

せめてもは犬猫なりとも訪ね来よ
わが友となり語り遊ばん*

猫は

寝ているか

食べているか

だ

という

一週間は

ゴミの日を中心にうごいている

*三浦タミ遺稿集『ひたすらに』より

ローベルト・ゼーターラー著

「ある一生」を読んだ

細部 俊作

ひとり暮らしのエッガー。オーストリアのアルプスを見上げる村で年々老いを感じている。幼年期に母を亡くし、叔父である農場主に引き取られたが、その過酷なムチによって脚に障害を負い、終生、足を引かずって歩くことになる。しかし、彼はたくましく成長し、ロープウエー建設会社に入り、山で骨身惜しまずに働いた。その後結婚するが二人の生活は長くは続かなかった。第二次世界大戦が始まると、黒海方面へ従軍し、後にロシア軍の捕虜になったが、無事に帰還する。

読み終えてみれば、エッガーの周りで何人もの人が亡くなっていた。ロープウエー建設現場での同僚の事

故死、雪崩の犠牲になった伴侶や村人、戦争では従軍先やロシア軍の捕虜収容所で何人もの死を見た。農場主の息子二人は戦地から帰ってこなかった等々。彼はふりかえった時、自分の歩いてきた道が数々の人の死の傍を通っていたことに打たれたりしなかつただろうか。そのことは字面からは読めないが、自分だけが生き残っていたという運命の不思議さとか運とか、見知った人たちがもういなくなっていることへの寂寥とかを。

戦後、村に戻ったエッガーは、人里離れたアルプスの山の斜面の小屋を得て、一時山のガイドをして暮らした。晩年は週に一度村に下りて買い出しをし、自分や周りの物相手に話しかけたりなど、質素で、きびしい自然に寄り添うような日々を送った。そして、自分ではおおむね満足のいく人生だったと思っている。これといった罪を犯したことも、この世の誘惑に溺れることもなく、神を信じる必要には一度も迫られなかった。自分がどこから来たのかは覚えていないし、自分が最終的にどこへ行くのかもわからない。だが、その間の時間を―自分のこの一生を―エッガーは悔いなく

振り返っている。

やがて彼が永い眠りにつくときがくるが、その描写にはしんと胸に落ちるものがあつた。眠りの前に彼が思い描いていたことは、これから数日間のうちに、ろうそくを何本か買い、風の吹き込み窓枠の隙間をふさぎ、雪解けの水を逃がす溝を掘ること。そして生涯、自分を支えてくれた脚への労いだつた。日中はすべきことをして、夜眠ればだまつても明日がくると信じ、自分に付き合つてくれた脚を愛おしく思い、そんな思いが巡るうちに、ベッドではなく食卓に伏せたまま息を引き取つた。

これはそれ以上ない死に方だと思つた。自分のことが最小限出来て、係累も借金も余計な財産もなく、死後、誰かのトラブルの原因となるようなものは残さない。寂しい死に方かというとなんかとはなく、孤独ゆえの満ち足りた日々、眠りの中でドアを開けたらそこが向こうの世界だつたというのはいい。では、自分のその日はどんなものになるのか。送つていく日々の中身で見るものは違ふのかもしれないが、その時脳裏にあるものが、穏やかで明るいものであつた

ら、それは満足のゆく死に方だといえるのではないかと、それは満足を思つたのだつた。

小説の最後にも印象深いシーンがある。死の半年前にさかのぼつてエッガーが村や山をさまよつてゐる姿だ。得体のしれない胸のざわめきに目覚め、バスで終点まで行き村中をさまよう。再びバスに乗つてはまた降りるが、もう目的も分からなくなつてきている。やがて白いものが舞い降りてきて、だんだん激しく降るものを雪だと感じている……。エッガーは急に家を飛び出して、なぜ、どこへ行こうとしたのだろう。出かけるときに上着も帽子も、小屋に鍵をかけることも忘れて。

(浅井晶子訳 新潮社二〇一九年発行)

この本は図書館から借りて読んだが、この本を探しに行つたわけではなく、「ある一生」という相当長めの物語を連想させるタイトルなのに、その割に本がさほど厚くなかつたので、軽い興味で手に取つたのだつた。著者は一九九六年ウイーン生まれ。もともとは俳優なのだといふ。ドイツ語で書かれ二〇一四年に刊行され

た。ブッカー国際賞などいくつかの賞をもらったとか。

*

こんな言葉があった。「人の時間は買える。人の日々を盗むこともできるし、一生を奪うことだってできる。でもな、それぞれの瞬間だけは、ひとつたりと奪うことはできない」。これは結婚した主人公が、二人で暮らすためにもっと給料がほしいといつて会社にかけてあに行つた時に部長からいわれた言葉だ。給料を得るために自分の時間を売ることができるが、二人で生きるその瞬間瞬間を大事にしろという意味だろうか。または訳者あとがきのように「人生とは瞬間の積み重ねだ」という意味だろうか。そう読むにしては、日々を盗む、一生を奪う、というのが並んでいるのはバランスを欠いていて大げさだとおもつた。

それは「瞬間」という言葉を現実に到来しては過ぎ去る時間とか場面のことととらえるからではないか。そこは、脳裏に記憶した現実の場面を思い出し愛おしむ瞬間、ととらえるとどうか。言い直せば、今後どんな不幸が訪れて命が奪われそうな時が来ても、心の中に生きるかけがえない者を思い出し愛おしみ語らう

瞬間をつくるなら、その瞬間は誰からも奪われることはない、というふうに読めば、多少違和感が薄まるだろうか。この読み方はフランクルの「夜と霧」の一節を援用したものが、エッガーの部長は、アウシュビッツのユダヤ人の極限状況を知り、フランクルと同じ考えに立っていたのだろうか。そんな疑問を抱いてしまうと、やはり語られた状況から浮いた言葉のように感じたのも事実だった。

水田とツバメ (二二)

佐藤ただし

・義父の思い出

昨年(二〇二〇年)の一〇月末に義父(妻の父)が亡くなった。享年九一歳だった。これまでこれといった病気もなく過ごしていたが、二年前に少し発熱があり、病院で調べてもらおうと胆管が炎症を起こしているためとわかり、入院して治療をし、状態が良いと家やショートステイの施設に戻る生活を繰り返していた。

義父は一〇年くらい前まで専業農家として、三年前に亡くなった義母と二人で田畑や山の手入れをして暮らしていた。子供が小さい頃はよく遊びに行っていたが、当時は土間のある平屋の家に住んでいて、居間には年中だるま型の薪ストーブが据えられていた。ストーブ

の上には薬缶が上がっていて、柿の葉など家の周りにあるものでお茶を作り飲んでいた。冬に行った時はストーブの傍に座って、乾かしたカボチャの種の実を食べていた。カボチャの種を食べたことがなかった私は少し貰って食べてみたところ、おいしかった。

また、義父の家の脇に車が一台通れる坂道があり、道路脇に唐竹が垣根のように植えられていた。その敷地の中にニワトリ小屋があり、名前は分からないが、赤茶や黒い羽根のニワトリが一〇羽くらいいて、毎朝、残飯や野菜くずを持って行き、卵を取って来ていた。

一度春の種まきの頃に遊びに行つて、種播き作業を手伝ったことがあったが、家の近くにある作業小屋で、種播きした苗を軽トラックでビニールハウスのあるところまで運び、一枚一枚丁寧に苗箱を床に並べて作業をしていた。それから数週間経つてまた行くと、ハウスの苗は一本一本マツチ棒くらいの太さに成長していて、丈夫な苗に育っていた。

このビニールハウスの奥には山間の中に沢田が続き、義父の田んぼも数枚あって、田植えや稲刈りの頃に行くと、ゆつくりとした時間が流れているような雰囲気

があった。

ここは当時、すでに田んぼの基盤整備が行われていて、沢の入り口に設置したポンプで水をくみ上げ、田んぼの隅に設置されたバルブを開けると水がこんこんと出ていた。義父はこの沢に設置されたポンプの管理を任されていたようで、ポンプで下流の川の水を上流部に押し上げ、好きなように水を使えるこのやり方は作業が楽だと、よく言っていた。また、用水の管理も土地改良区を通さずに近くの金融機関に事務作業だけを委託し、運営は自分たちで行い、既成のやり方にくらわらずに管理費を安くしていたようだ。

この頃、この沢の田ではササニシキを作っていたようだが、夕食時に出されたご飯は、透明感のある輝きがあり、おいしかった。

また、田畑が忙しくない時は、山の杉の木の手入れのために山に入り、林道を作って杉の木を搬出できるようにし、森林組合の研修にも参加していたようだ。稲作が手作業の時代には、杉の間伐材は稲架掛けの資材として需要があったため、間伐材が資材として売られた時代だったし、雑木や廃材はストーブや風呂の薪

としてとして一年を通して使っていた。

年齢が八〇代になっても十分仕事はできたが、万が一事故でも起きたら大変ということ、少しづつ田んぼを委託するようになり、ここ四、五年は自家用の野菜を作るだけになっていた。

二ワトリ小屋のあった家の脇の道を五〇メートルくらい登ってゆくと坂道の頂になり、さらにその道を少し下ると、右手の山の斜面に一塊の墓地があり、墓は正面に広がる田んぼや杉山を見ているように建っている。墓地の脇は一周二〇〇メートルくらいの原っぱになっていて、昔はこの原っぱで田植え後にさなぶりの運動会をやっていたと話していた。

義父の家の墓もここにある。葬儀の後、遺骨とともに持って行った花や缶ビールなどを供え、焼香を終えて振り返ると、大きく育った杉山が沢の奥まで続き、水田には大豆が作付けされていた。

義父のような専業農家が高齢のために働けなくなると、田畑の耕作を委託し、受託してくれる農家や組織が農地を維持してゆくことになる。沢地のような山間

の田んぼは法面の草刈りなどに手間が掛かるが、私たちはそうしたことに時間を割かなくなった。食に対する切迫感が相対的に下がったこともあるし、他にやらなければならぬことも多くある。

義父は、同世代の近所の人達が相次いで亡くなってゆき、義母も亡くなり、話し相手も少なく寂しい思いをしていたと思う。田んぼや山林のことについてよく話を聞かずにこの世の別れとなつてしまつた。

葬儀の翌朝、我が家の勝手口の引き戸を開けて外に出ると、二〇メートルくらい離れた市道にツグミを一羽見つけた。そこは隣家の玄関に通ずるところだが、こうした場所でツグミを見かけたのは初めてだった。ツグミは低地の山林や畑、それから堤防の斜面とかでよく見かけることはあるが、アスファルトの道路に降りているのも珍しい。

そのツグミはエサを探すでもなく、しばらく胸を反らした姿でじっとしていたが、私が見ていることに気づいたのか、さっと翼を広げて民家の植木の枝を縫うように飛んで行つた。すると隣家の柘植の木の中から、

もう一羽のツグミが後を追うように翼をひるがえし、勢いよく飛び去つた。その姿は他界でまた一緒に暮らすようになった義父と義母のように思えた。二人とも亡くなってこの世に生きてはいないが、すぐ近くでいつも見守つていてくれると、ツグミの姿を借りて教えてくれたような気がした。

その後、一週間ほどツグミは家のそばにやつてきた。

雑記 (23)

横山 仁

以前、蠍座の弾圧について紹介したが、「海風」という雑誌で最上健造という人が「『蠍座』を紡ぐ人々」を連載している。(34号から) 詳しく書かれていて、興味深い。

*

アメリカ大統領就任式がビデオ映像だったり、バイデンが替え玉だったり、ネットでは賑やかである。「人生は冥土までの暇潰し」の亀さんも、よく見たら、やっぱりビデオ映像だったという。(「トランプ革命02」[2021/01/28 15:04])

(引用開始)

だが、途中の半分まで見たNHKの生中継、あまりにも整然とまとまり過ぎていて、生中継の時に伝わってくるはずの熱気のようなものが全く感じられず、どことなく人為的というか違和感が残ったのも確かであった。そこで、続けてABCの生中継をチェックしてみたところ、バイデンが宣言を行った正午(現地時間)、それまで曇天のはずだったのに、バイデンが就任演説をする頃には冬晴れとなっているといった等、不自然な点に幾つか気づいたのである。

そこで、さらにネットで確認したところ、就任式の天候以外に次々と不自然な点があることを知った。以下、ネットで指摘されていた就任式の不自然な点を一部挙げておこう。

▼議事堂

以下は、同じく抱き茗荷さんのリツイートだが、テレビに映っていたアメリカ合衆国議会議事堂は、中国の何処かの田舎に建てた、アメリカ合衆国議会議事堂を

模したもののようだ。

▼痴呆症

バイデンの就任演説を見ていて、退屈な演説だなというのが第一印象だったが、それよりも驚いたのは、バイデンが原稿無しで（就任式だから当たり前だが…）、言い間違いをしたり、言葉に詰まったりするようなこともなく、最後まで淀みなく演説していた点である。だから、認知症を疑われているバイデンらしくないと、不思議に思ったものである。

▼影武者

バイデンの耳の形が昔と今とでは異なると指摘する動画を見た。だから、就任式に登壇したバイデンは偽物（影武者）ではないだろうかと、動画の制作者は疑っているようなのだ。御参考までに、以下は同様にバイデンの耳の形に疑問を抱いた、他の人のツイートだ。拙ブログは監視対象になっている恐れがあるので、後に削除される恐れもあることから、このツイートだけは魚拓（画像フレイル）で残しておこう。

小生は慶応大学の高橋信一先生と一緒に、数年にわたってフルベッキ写真真の真偽を追究したことがあり、大量の報告書を旧ブログに掲載している。関心のある読者は一読していただければ幸いです。

耳と云えば、指紋が一人一人異なるように、実は耳の形も個人によって大きく異なっているもので、目や鼻と違って現代の成形手術を以てしても、耳の形を変えることはできないのだ。だから、自信を持って就任式に登壇したのは、バイデンの影武者（偽物）であると個人的に断定できるのである。

その他、リンカーン聖書、正午なのに長い人影など、実に多くの可笑しな点が認められ、今朝の石川新一郎氏も幾つかの点を指摘の上、最後は「就任式はインチキ」と斬り捨てていた。

（引用終わり）

こうした記事を見ているとき、「秋田魁新報」1月

30日に、佐々木毅氏の「バイデン新政権の発足」がのっ
ていて、どんなことをかいているのかと思ったら、お
そまつで、日本の政治学者はこの程度なのかと思った
次第。ユーチューバー以下だな。

「言うまでもなく、トランプ支持者による連邦議会
議事堂襲撃事件発生がそれである。(改行) それを教
唆扇動したのが、大統領選での敗北が決定しているに
もかかわらず、『戦況は盗まれた』とかたくなに主張
する現職大統領というのであるから、政治の混乱ぶり
もここに極まれりである。」

混乱しているのはだれのテタマ？ というか、ヤバ
イデン(匿名、バイデンだと削除されるのでネットでは
こういう表現をつかったりする)よりのものでなければ、
掲載されないとみるべきか。(都合の悪いことは、報道
しない自由があるというマスゴミ) ネットでは、あらか
じめ計画されていたこの暴動を起こしたのが、極左の
アンテナイフアなどである映像がアップされていて、
ゲートを開けて仲間の警察官が招き入れている。Sund
元DC警察チーフは、上院公聴会で

Antifa、Proud Boys などが暴動に関与する情報を得
ていて、国防総省に州兵の派遣を要請したが、国防総
省は要請があったことを否定した。(カナダ人ニュー
ス2021)から)。また、CNNとNBCは、暴動扇
動者のジョン・サリバンに35000ドル支払っている。
(「なんでもニューズ女子」から)

バイデンになって、戦争屋がよるこび、さっそくシ
リアに空爆をはじめている。また、バイデンは、中国
のウイグル弾圧は、中国の文化だとのたもうた。ウイ
グル弾圧をジェノサイド(民族大量虐殺)と認定した
のはトランプ時代のポンペオ国務長官だが、日本の池
上彰は、トランプはウイグル弾圧に興味がないとフェ
イクニュースをテレビで流した。ネットで大炎上した
が、本人は訂正もしていないようだ。カナダもフラン
スも中共のジェノサイドを認めたが、日本はなにもし
ていない。

犯罪者や人身売買、児童売春関係者も多い不法移民
の受け入れもはじまった。《「BIDEN PLEASE LET
US IN!」と書かれたメッセージボードやTシャツで訴

える中米からの移民』。用意したのは、だれ？、と。

また、エネルギー問題では、アメリカの産業をだめにし、失業者を増やしているバイデンを、アメリカフアーストではなく、アメリカラストだといったのは、CPAC（ACUが主催する保守政治行動会議）でのトランプである。ちなみに、国際政治学者の藤井敏喜氏もオンラインで日本から参加している。

*

「Bonafidr」（オールドメディアが伝えない海外のニュース）に、「パトリック・バーン回顧録—ドナルド・J・トランプはどのようにしてホワイトハウスを賭けた戦いに負けたのか」を連載していて、日本語の概略がある。原文にもリンクされている。トランプのプレーンにも、沼の大鰐がいたということのようだ。

また、「2020年大統領選挙で実際に外国から書き換えられた票数は210万票以上！ Overstock.com 創業パトリック・バーン氏が国別のデータを公表 日本か

らも票の書き換えが行われていた」という。書き換え票の合計は、問題となったペンシルベニア州で87万票以上、2番目のウイスクンシン州で36万票など。書き換えは、中国からが74万票、ロシアが29万票などで、日本からも18904票が書き換えられた。

本来なら、こうした外部からの書き換え（ネットでのアクセス）があれば大統領選挙はやり直しなのだろうが、連邦最高裁もバイデン側で、たとえばテキサス州などからの憲法違反という訴えを却下している。これも沼の大鰐だろう。

ちなみに、大企業の政治献金は、

- ・アルファベット（グーグル）
バイデン 433万ドル（約4億5千万）
トランプ 106万ドル（約1100万）
- ・マイクロソフト
バイデン 240万ドル（約2億5千万）
トランプ 248万ドル（約2500万）
- ・アマゾン
バイデン 222万ドル（約2億3千万）

トランプ 26万ドル (約2700万)

・アツプル

バイデン 177万ドル (約1億8400万)

トランプ 9.7万ドル (約1千万)

・フエイズブック

バイデン 157万ドル (約1億6300万)

トランプ 4万ドル (415万)

YouTubeなどのSNSが、バイデンを有利にするために、トランプのアカウントを消すわけだ。

アマゾン・プライムはさらに、「最高裁でペンシルベニア州の案件を審議すべきと言ったトーマス判事(最高裁唯一の黒人裁判官)のストリーミングを停止」した。「なんでもニュース女子」から

*

前号の「あとがき」で、乾燥ギバサのことをかいたが、後でアマゾンをみたら、粉末もあることがわかった。また、グラマーで知人に会ったところ、ギバサが

粘らなくまずい、といっていた。そういえば、ナイスの売り場に、粘らないというメモがあったことを思い出した。それによれば、匂のはじめは粘らないということだったようだ。

「アカモクはいつ取るべきか？」(EVAN's blogから)。

(引用開始)

アカモクは若い時は粘りは少なく。

成熟末期は粘りも無くなりませう。

収穫開始時期には、粘りがあるかどうかがとても大事なポイントです。

粘りのないアカモクはアカモクではないですよ。

(引用終わり)

また、「釣り人のたわ言」から。

(引用開始)

でもいくら秋田産以外のギバサでも、お湯に入れたり、熱湯をかけたしたりしたら粘らない時が時々あるそうです。

昔、板前の小僧をやっていたとき何処産かは分からな
いけど、ほとんど失敗しない方法を教わりました。

ギバサは塩気を嫌うので、水道水でしつかり洗って、
鍋に、盃2杯位の水を入れて（ギバサの量にもよるけ
ど）煎るように火を通してみてください。

鮮やかな緑色に変わったら、まな板の上でトントント
包丁でたたいてください。

後は、すりおろした生姜をたっぷり、ポン酢でも、醬
油でもかけてアツアツのご飯にかけて食べれば何杯で
もおかわり出来ますね〜っ！

側に居た年寄りが（すみませんご年配の方）、ギバサ
は冬の終わり頃の食べ物。

「ヒロッコ」ど「ギバサが出るようになれば、もう少
しで春だ」な〜って喋って居た。

俺は釣りで四季を感じられるけど、旬の食べ物でも季
節感を感じられたらいいですね〜っ！

（引用終わり）

知らなかったのは、ヒ素があるということ。「お魚
Web」から）

（引用開始）

ヒ素に注意！

アカモクは絶対に生食をしてはいけません。

何故ならば、アカモクはホンダワラ科に属する海藻な
ので、無機ヒ素の割合が高くなっているのです。

ヒ素が含まれた身近な食材だと、ひじきが有名ですね。
ヒ素は茹でる事で除去できるので、必ず処理を行いま
しょう。

（引用終わり）

こんなことは、だれかに教えてもらわないと、わか
らないな。いちおう茹でてはいたが、適当だったかし
らん？

ギバサの呼び方が紹介されていたので参考まで。

秋田県：ギバサ 山形県：ギンバソウ

新潟県：ナガモ・ギンバソウ 千葉県：ナガモク

京都府：ギンバ 島根県隠岐：ハナタレ

あとがき

◆2月から秋田市一つ森公園の周回コースを歩いている。1周421.95mのコースを同じ方向に走ったり歩いている人達から「気」を貰い、速足と普通の歩行を1周ごとに繰り返している。雪の降る日に除雪したりコースを整備している方達に感謝しながら。(T)

◆厚手の靴下のかかところが、すぐに破れる。安物のせいもあるだろうが、スリッパとかで保護すれば、少しはもつのかもかもしれない。登山用の高いやつだと、けっこう持つようだ。(J)

◆1月7日の暴風雪により、自宅地区は20時前から翌日18時頃まで丸1日停電であった。天気予報の注意喚起もあって、予め緊急時体制をとったことでどうにか凌げたが、電気に依存する現代生活の脆さをまたも思い知らされた感がある。そして2月13日深夜の地震。3月11日14時46分、東日本大震災10年目を迎える。忘れてはいけない。(2/28記)(B)

◇雪は車置場の後ろの空きスペースにどンドン捨てていった。あるとき融雪を早めるためにスコップを入れようとしたら、その雪山の表面を塵埃が黒く覆っていて驚いた。ということはマスクなしで外を歩いた時に、空から降りてくる埃も吸い込んでいたかと気づいた。しかしメガネは曇るし、長い間かけていると息で湿ってくるのは不快だ。かけると視界良好で呼吸快適なマスクありませんか。(S)

「海市」第23号

2021年3月11日発行

発行 書肆えん

秋田市新屋松美町5-6 横山方